



特定非営利活動法人 日本モータースポーツ振興会（登録 No.26）



特定非営利活動法人 日本モータースポーツ振興会は、子どもの健全育成に力を入れ、主に二つの活動をしています。一つ目は、地域安全活動を兼ねた「交通安全啓発活動」、二つ目は、「子どもや若者の不登校・うつ病・発達障害への支援活動」です。

①交通安全啓発活動

楽しい競技や体験を通して、子どもから大人までが自然と運転技術の向上や安全意識の高まりを実現できる活動事業として、「はままつポンポンまつり」や「ランバイク大会」を年に1回開催しています。この事業を通じ、市民一人ひとりが交通安全について考え、交通事故のない社会は自らが成し遂げるものである、との認識を社会全体に正しく広めるよう努めています。



②子どもや若者の不登校・うつ病・発達障害への支援活動

発達障がいや不登校・うつ病の子どもと若者たちを対象に「カートスクール」を行っています。頭で考えるだけでなく体や五感を使って自分自身で決断、実践することで生まれる「達成感」「感動」を感じてもらい、心に元気を送り込みたいと考えています。また、「カートスクール」を一緒に受講する生徒たちと自然にコミュニケーションが生まれるカリキュラムを組み、人と人、そして社会とのつながりを感じてもらおう機会を設けていきたいと考えています。



目標寄附額は、300,000円（1事業年度間）。いただいた寄附は、「ランバイク大会」や「カートスクール」の運営に使用します。

寄附実績

平成26年度1年間の寄附実績をご報告します。

★寄附件数：5件

★寄附額：276,566円（運用利子収入含む）

★寄附者：＜希望寄附＞

蝦名 佐知子 様

＜一般寄附＞

いなさ湖フィッシングクラブ 様

特定非営利活動法人 静岡県フィッシングインストラクター協会 様

ご支援いただき、ありがとうございました！！



はままつ夢基金についての詳細は、浜松市ホームページに掲載しております。

<http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp>

浜松市 → くらし・手続き → 市民活動 → 市民協働 → はままつ夢基金

はままつ夢基金についてのお問い合わせは
浜松市 市民部 市民協働・地域政策課
☎ (053) 457-2094 まで

はままつ夢基金通信・第4号

～みなさまからの寄附でこんな事業ができました！！～



(H27.5月) 発行：浜松市 市民協働・地域政策課

♪平成26年度 団体支援補助事業が完了しました

平成26年度 団体支援補助事業として3つの事業が採択されました。補助金の交付を受けて実施された以下の事業について、ご紹介します。

◆平成26年度 団体支援補助事業 採択事業◆

No.	事業名	団体名
1	遠州灘沿岸へ環境・防災・教育に貢献する循環型森づくり実施	特定非営利活動法人 縄文楽校
2	ネット依存についての勉強会	特定非営利活動法人 浜松子どもとメディアリテラシー研究所
3	外国人児童生徒への日本語・教科学習支援事業	特定非営利活動法人 浜松日本語・日本文化研究会

1. 『遠州灘沿岸へ環境・防災・教育に貢献する循環型森づくり実施』 (特定非営利活動法人 縄文楽校)

★概要

遠州灘沿岸に広葉樹の混植・密植の森づくりを実施するもの。

★目的

遠州灘防潮堤への樹木植栽がマツ中心であるため、木の成長が遅く、植栽後の管理に多額の費用がかかることが地域の課題です。

そこで、マツより防災効果が高く、安価で多様な自然に近い森を早く実現できる広葉樹の混植・密植手法のデモンストレーションを実施しました。現在の遠州灘防潮堤に植えられているマツは、マツ枯れがひどく、対応も遅れがちです。今回実施した手法は、三年間草刈りを行った後は管理不要であり、その優れた手法を証明することができます。



★実施内容

仙台のNPO、掛川のNPO、地元自治会の支援を受け、遠州灘沿岸及び宮城県岩沼市にて植樹活動を実施しました。

- ・「千年希望の丘」植樹祭（宮城県岩沼市）6名参加
- ・遠州灘沿岸（田尻町）へ300本植樹 8名参加
- ・遠州灘沿岸（田尻町）へ300本植樹 90名参加

★目標と今後の展開

当面の事業目標は、遠州灘沿岸へ広葉樹の混植・密植を継続して実施すること、また、植樹した苗木を成長させることです。最終的には遠州灘防潮堤全体（17.5キロ）に広葉樹の混植・密植を行うことを目標としています。



2. 『ネット依存についての勉強会』

（特定非営利活動法人 浜松子どもとメディアリテラシー研究所）



★概要

養護・一般教職員および教育関係者を対象に、ネット依存に関して講演、意見交換等の勉強会を行うもの。

★目的

スマホやタブレットの普及により、子どもも大人も常時ネットの世界につながるようになり、日本には数百万人のネット依存者がいるとも言われています。ネット依存は人の心と体をむしばみ、人生を狂わすこともあります。

児童生徒の心と体の健康を維持するうえでネット依存は緊急の課題ですが、私たちがネットを利用し続ける以上、利用と依存は常に隣り合わせです。

「ネット依存とはなにか」「ネットに依存してしまう背景にはなにがあるのか」「依存せずに使うとはどういうことなのか」を参加者とともに考え、よりよいICT社会への道を探り続けていく事は非常に重要です。

★実施内容

ネット依存は、その課題解決はおろか、課題認識もまだまだ進んでいない状況です。家庭や学校現場などで深刻な状況に陥っている場合も少なくありませんが、専門医や支援団体などが非常に少ないため、情報も入手しにくいのが現状です。今回の勉強会では、以前より情報交換や連携をしてきた団体「エンジェルズ・アイズ」の遠藤美季氏をお招きし、講演、パネルディスカッションを行いました。

- ・講演（講師：「エンジェルズ・アイズ」代表 遠藤美季氏）
- ・パネルディスカッション（パネリスト：遠藤氏、特定非営利活動法人 浜松子どもとメディアリテラシー研究所 理事長 長澤）
- ・講師、参加者全員での意見交換



★目標と今後の展開

依存の実態や相談事例をもとに課題や防止策を学ぶこと、議論や意見交換を通して、気づきや今後の行動をイメージできるような場を作り、賢いネットやスマホとの付き合い方を考えることを目標としました。

今後は、勉強会に参加した養護・一般教職員や保護者、教育関係者が、現実的に行動や業務に活かすことを大いに期待しています。

3. 『外国人児童生徒への日本語・教科学習支援事業』

（特定非営利活動法人 浜松日本語・日本文化研究会）

★概要

浜松市内の小中学校に指導者やボランティアを派遣し、授業における取り出し支援や入り込み支援により学習支援を行うもの。

★目的

浜松市教育委員会の調査によると、浜松市内の小中学校には、外国籍の子どもが1415人在籍しており（平成26年10月31日現在）、このうち約70%が日本語や教科の支援を必要としています。外国人担当の専任教員のいない学校では、どのように外国人の子どもたちに日本語支援や教科学習支援を行えばいいのかわからないことが多くあります。また、ある程度日本語ができていても教科学習で使われる抽象的な日本語が分からず、学習に後れをきたし、やる気を失ってしまう子ども達もいます。

したがって、この事業では、支援要請のあった学校と連携し、指導者やボランティアを派遣して一人ひとりの子どもに合った支援計画を立て、生活言語や学習言語を習得することを目指します。

★実施内容

支援要請のあった浜松市内の小中学校に支援者を派遣し、授業中における取り出し支援や入り込み支援を通して、学校生活に必要な日本語や教科理解に必要な日本語を教えました。

★目標と今後の展開

外国人の子どもたちの進路を保障し、将来の地域社会を担う人材の育成のために、小中学校における日本語及び教科学習支援を行いました。学校と連携して一人ひとりの子どもに合った支援計画を立て、生活言語や学習言語の習得を図ることを目標としました。

今後は、市教育委員会や学校の先生方との情報共有の徹底、指導者・ボランティアの養成やスキル向上のための研修、指導者が効率的に指導に取り組めるような教材の研究、作成を行います。



♪ 第8期登録団体が決定しました

平成27年3月20日（金）に開催されました浜松市市民協働推進委員会にて、団体支援補助事業団体登録の審査が行われました。審査の結果、第8期登録団体に1団体決定し、夢基金登録団体は計26団体となりました。

今回新たに基金登録団体となった「特定非営利活動法人 日本モータースポーツ振興会」をご紹介します。